

職員が自ら調査してきた県外のまちづくり事例を3例紹介します！

part1 古い良さを生かしたまちづくり～滋賀県彦根市～

～築城150年彦根市～

彦根市は琵琶湖の東に位置し、井伊家の城下町として栄え今の町割り
りは彦根城築城時に築かれたものです。現在でも、当時の趣を多く残
している彦根市ですが、高度経済成長の下で都市開発が進められ、一
時は多くの歴史的建物等が失われました。彦根市ではこれを危惧し、
地域住民主体のまちづくりが多数行われています。今回はその代表2
箇所を紹介します。



彦根のキャラクター
『ひこにゃん』

夢京橋キャスルロード



整備前



整備後

「夢京橋キャスルロード」は彦根城の西に位置し、街路事業の道路拡幅
工事と併せてまちなみ修景を地域住
民主導で進め、「古い良さを生かした
新しい活気のみなぎるまち」をコンセ
プトにまちづくりを取り組んできた
地域です。城下町としての誇り、後世
へ継承していく責任をまちの至る所
で感じられます。



公衆トイレ



細かいまちなみ修景基準を設けている



裏路地も整備されている

四番町スクエア

「四番町スクエア」は夢京橋キャッ
スルロードに接しシャッター通りと
なっていた商店街を区画整理した地
区です。

まちのコンセプトは「夢京橋キャッ
スルロード」と違い、「大正ロマン」を
コンセプトにガス灯をイメージした
街路灯や建物が建ち並んでいます。



大正ロマンがコンセプト



「せんとくん」と同じ作者が
手がけた地藏童子

part2 環境と共生するまち～越谷レイクタウン（埼玉県越谷市）～

江戸時代から日光街道の宿場町「越ヶ谷宿」として栄えてきたこの一帯は、元荒川や古利根川、綾瀬川、新方川、中川などの多くの河川に囲まれ、「水郷こしがや」と呼ばれてきました。

水田地帯として良質な米などを産出する一方で、大雨による洪水被害にたびたび悩まされてきました。高度経済成長期に入り、ベッドタウンとして水田の宅地化が急速に進むと、河川調節池を整備するなどの抜本的な治水対策が求められるようになりました。

そこで昭和63年4月に、治水対策を目的とする河川事業による調節池建設と、土地区画整理事業による新市街地整備を一体的な事業として行う「レイクタウン整備事業」が国の新規施策として創設され、越谷レイクタウン地区が事業採択されました。

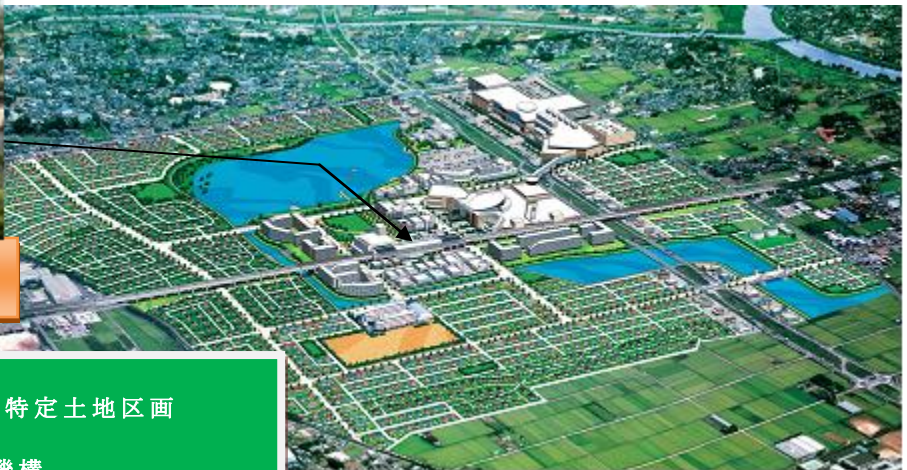
平成8年5月に事業の都市計画決定がされ、平成11年12月には都市基盤整備公団（当時）を施行者とする「越谷レイクタウン特定土地区画整理事業」として建設大臣（当時）の事業認可を受け、整備が開始されました。

整備は順調に進み、平成20年3月15日にはJR武蔵野線「越谷レイクタウン駅」が開業し、「まちびらき」しました。

今後は、駅を中心に住宅や商業施設、医療施設などの建設が進み、歩いて暮らせる、環境負荷の少ないライフスタイルが実践されようとしています。



地区のほぼ中央に位置する「越谷レイクタウン駅」



↑全体完成予想図

※UR都市機構提供のパフレットより抜粋。
ベースは計画を基に描きおこしたもので、実際とは異なります。（空撮の写真は平成19年8月撮影）

■事業概要

事業名称：越谷レイクタウン特定土地区画整理事業

事業施行者：（独）都市再生機構

地区面積：225.6ha

計画人口：約22,400人（7,000戸）

事業年度：平成11年度～25年度（清算期間を除く）

事業費：約897億円



○レイクタウンのシンボル大相模調節池

- ・調節池は治水対策を目的に、UR都市機構が県の施行同意を得て、河川事業により建設しています。
- ・河川水位上昇時には調整池の水位も5mまで上昇するのですが、常時は1～1.5mの水位であり、住民生活に潤いと安らぎを与える親水空間となっています。

○駅前商業施設「イオンレイクタウン」

- ・店舗面積約218,000㎡は日本一。
- ・太陽光発電、壁面緑化、ハイブリッドガスエコシステム（※1）、電気自動車の充電ステーション設置などを行い、官民一体となった環境共生への取組に貢献。
- ・従来型の店舗と比較して約20%のCO2削減効果。

（※1）：コ・ジェネの一種。より効率の良い施設内冷房が可能。



part3 路面電車を生かしたまちづくり～富山県富山市～

富山市では、今後の人口減少と超高齢化に備え「鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務等の都市機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集約型の「コンパクトなまちづくり」の実現を目指し、富山ライトレールの開業に取り組みました(ライトレール(LRT)：Light Rail Transitの略称)。

富山ライトレールは、車いすやバギーでも楽に乗り降りできる全低床車両の導入や、騒音・振動を抑える制振軌道(樹脂固定軌道)の採用、ホームを挟んで路面電車とフィードバス連絡する円滑な乗り換え、運賃収受時における利用者の利便性に配慮したICカードシステムの導入等、多くの特徴があります。現在注目されているヨーロッパのLRTと比べても遜色のない国内初の本格的なLRTとして全国から注目を集めています。



LRT 利用状況

運行間隔 15分(ラッシュ時は10分)
始発:5時台 終電:23時台
駅数 13電停(全低床車両)
運賃 200円均一

小学生が通学にも活用

また終点の駅(岩瀬浜駅)周辺では、「まちづくり交付金」を活用し、歴史と文化を生かしたまちなみの保全を行っています。(無電柱化、街灯設置、修景など)



北前船回船問屋「森家」
(国指定重要文化財)



統一感のある建物(甘味処と商工会議所)



- ※ LRT 導入後の変化 → 開業(H18.4.29)から H21.9.30 までの 1,251 日間で、約 570 万人が乗車。
- LRT 開業前(H17.10月)の調査では、平日：2,246 人/日(休日：1,045 人/日)の利用者数に対し、導入後の調査では、平日：4,819 人/日(休日：4,057 人/日)となり、**約 2 倍～ 4 倍の利用者増**。
 - LRT 沿線(北前船回船問屋「森家」)の入館者数
↳ **約 3.5 倍増加**
 - LRT 沿線(電停から 500m 圏域)の新規着工件数
↳ 開業前：90 件前後 → **H19：112 件 H20：145 件**

県営公園の紹介コーナー

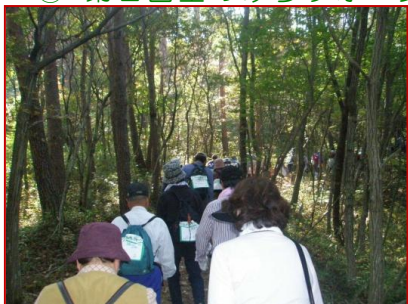
平成21年度のウォーキング大会特集

今回紹介する大会

- ① 第2回空のみちウォーク（参加者約600名）
会場：福島空港公園
日時：10/18（日）
- ② 第7回あづまの郷ウォーク大会（参加者約1,900名）
会場：あづま総合運動公園及び周辺
日時：11/3（火）文化の日

大会の状況

① 第2回空のみちウォーク



大変気持ちの良い秋晴れのなかで行われ、未整備で手付かずの園内を初めて歩き、豊かな自然を満喫しつつ様々な発見がありました。



② 第7回あづまの郷ウォーク



当日の気温はかなり低く、出発前は凍える程寒かったのが、ゴールする頃には身体も暖まり、美しい紅葉のなか、清々しいウォーキング大会になりました。参加されたみなさん、お疲れ様でした。



メールマガジン登録随時受付中!!!

登録された方には、県内外のまちづくりに関する情報のほか、イベントなどのお役立ち情報をメールにてお知らせいたします。

メールマガジン（無料）の登録をご希望される方は



1. 団体・会社名
2. 氏名
3. メールアドレス

1～3を記入の上、まちづくり推進課のメールアドレス（machizukuri@pref.fukushima.jp）まで希望する旨ご連絡下さい。

「編集後記」

「まちづくり瓦版～うつくしま、まちづくり推進レポート～」（Vol.34）はいかがでしたでしょうか？

今後とも各地のまちづくりの取組事例の他、街路・公園等の事業紹介、イベント等の情報提供など、より充実した内容にしていきたいと思っております。

取り上げてほしい事例や写真、ご意見・ご感想などございましたら、遠慮なく是非お寄せ下さい！

【発行元】

福島県土木部まちづくり推進課
〒960-8670（住所記載不要です）
TEL 024-521-7510
FAX 024-521-7956
e-mail machizukuri@pref.fukushima.jp
URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>

